

〔曲名〕 I Novellieri Fioentini

フィレンツェの講釈師

〔曲種〕

〔作曲者〕 E.Ricci

エットーレ・リッチ

〔編曲〕

作者は1854年8月31ラヴェンナに生まれ1901年10月10日ローマに逝いた作曲家でホルン奏者、吹奏楽指揮者でもあった。

ミラノの音楽学校でマッツカートに学び諸所の管弦楽団のホルン奏者とし、

又ヴェニスのマルチェロ音楽院の教師及ピザローマの吹奏楽団の指揮をつとめ、歩兵第94連隊楽長もつとめた。

作品にはオペラ、吹奏楽等数多あるがマンドリン楽も二十曲程フォルリヴェージから出版している。

ムニエルによつて編曲された八楽章に亘る「愛の詩」は最も著名であるが本曲によつても作者の持味を充分窺うことが出来る。

表紙絵には樹下にリュート（或はカラシオーネ）の伴奏者を従え歌い且つ語っている人物が描かれてあり、

中世の即興詩人の名残りをこゝに留めている感じがある。

本邦でも明治、大正時代は祭日に大道芸人の演ずる之に類したものが色々あったが今や全く失われて了つた。

私が曲集の夫々の表紙に拙い絵を挿入するのも

よき時代の懐古的な趣味と親んで頂いた方には「あの曲はあの表紙」と思出して頂く為のものである。

1970年6月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第6集より